海外実習報告第１日目　8 月 31 日(木)　　細川 錦壱

待ちに待った海外実習１日目は主に成田からバンコクへの移動。

今回の実習では、森田先生、院生１人（ TA : ティーチングアシスタント)、学部生４名の計６人が成田空港からバンコクに向かいました。前日までウィスコンシン大学のサマープログラムに参加していた人、前日の晩から成田空港に前のりしていた人、夜行バスで実家から来た人などみな様々なルートで 14 時 45 分のフライトに間に合うよう各自で成田空港に集合しました。

私は前日の晩に JR で帯広から札幌へ移動し、朝一番の便で新千歳空港から成田空港まで移動しました。成田空港に着いて第１ターミナルで２時間ほど他のみんなを待っていると、TA の高木さんから連絡があり、集合はまさかの第２ターミナルとのこと。まさかとは言ってもメールには集合は第２ときちんと書いていました。完全に私の確認不足でした。連絡をもらいダッシュで電車に乗りなんとか第２ターミナルで合流できました。早々足を引っ張ってしまったので、この実習でこれ以上迷惑をかけないよう気を引き締め直しました。

【写真１】いざ出発！成田空港での学部生４人を収めた１枚

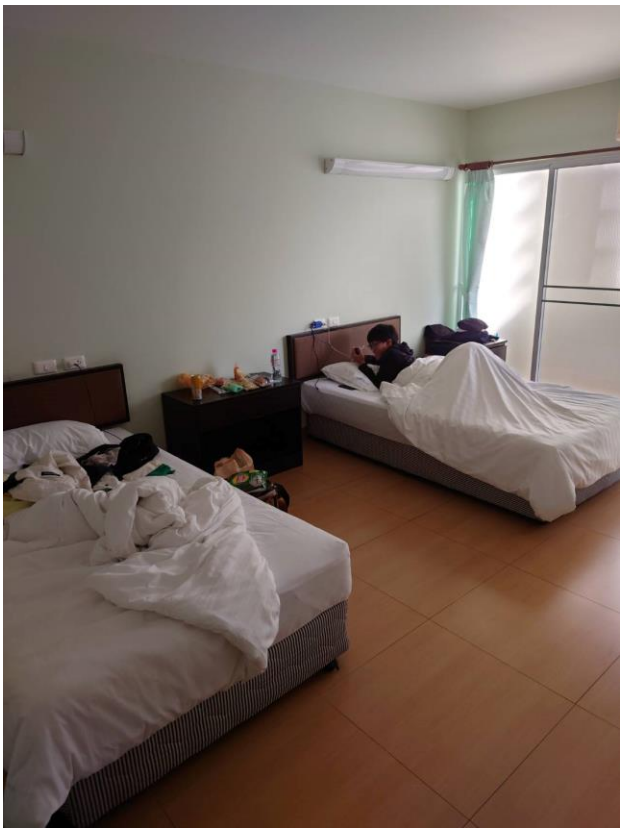
その後、無事全員のチェックインが終わり機内に乗るまでは何の問題もなかったものの、飛行機がなかなか出発しませんでした。機材トラブルで遅延するとのアナウンスがありました。成田空港 14 時 50 分離陸予定のはずが、予定より 70 分遅れて離陸し、バンコクのスワンナプーム国際空港に着いたのは現地時間の 22 時すぎでした。LCC に限りませんが、国際便の遅延はたまにあることみたいです。機内では機内食や映画などのサービスはなく、7 時間超えのフライトをこれから始まる実習に向け睡眠にあてた人が多かったです。機内での待機時間が長く学生に少し疲れが見えました。

スワンナプーム空港に着いて、別の便で先に来ていた岸本先生、耕野先生と合流しました。空港の外は雨がぱらぱらと降り、外に出るとどんよりとした熱気が顔に押し寄せてきて、熱帯湿潤気候を肌で感じました。湿度の高さに日本との大きな違いを感じました。

空港から宿泊地のチュラロンコン大学までは大学の方に車で送迎してもらい、40 分ほどで着きまし

た。タイの首都バンコクは想像通り巨大な広告塔やビルが立ち並ぶ大都会でありましたが、道路の端にゴミが固めて置いていたり、平気でヘルメットを着けずバイクを 2 人乗りしている光景は日本では考えられないものでした。もう夜遅い時間でしたが人と人との距離、車と車の距離が近く、気候に加え人の熱気も凄まじかったです。

チュラロンコン大学はバンコクの都会のど真ん中にある大学で立地の良さが特徴です。大学の規模が大きく構内のいたるところに出店があり、学内は深夜にも関わらず人の動きがありました。細川、稲垣の男子学生コンビは学生寮、他の 6 人は CU iHouse と呼ばれる大学施設にチェックインしました。チュラロンコン大学の寮はベッドとシャワーがついているだけのシンプルな作りで、畜大の碧雲寮に住んでいる私にすれば快適すぎました。一泊一部屋 800 バーツ（約 3200 円）、二人で利用したので、一人 400 バーツ（1600 円ほど）です。シャワーとトイレにカーテンなどの仕切りがないこと、シャワーの水圧が弱いことは少々不便に感じました。現地学生と同じ場所で生活をさせてもらうことは貴重で、ぜひこの機会に明日以降現地の学生に話しかけてみたいです。



【写真 2】細川・稲垣が宿泊したチュラロンコン大学学生寮

その後、セブンイレブンで集合し夕食を買い解散。コンビニで購入したオレンジジュースは甘すぎるは、弁当はスパイシーすぎるはで、いきなりタイ料理の先制パンチを食らいました。外国のコンビニはご当地のレア感満載で楽しいですね。15 分でも足りないぐらいでした。

予定より到着が遅れましたが無事バンコクに到着でき、学生一同の体調も良好です。タイの湿度に負けず明日以降の実習にも張り切って取り組んでいきます。

海外実習報告２日目　９月１日(金曜日)　　稲垣凌吾

海外実習２日目。今日はバンコク市街にあるタイ国内で最大の規模を誇る大学、チュラロンコン大学の表敬訪問と講義です。午前 7 時頃に起床し、少し早めに滞在先の学生寮を出て周辺を散策しました。市街地内の道路は昨晩深夜に到着した際に見た静かな様子とは大きく異なり、既に多くの自動車や人々で溢れており、日本の都会などとは違った街の一変した様子を見て、タイの首都に来たのだという実感が湧きました。

8 時 45 分頃に皆と合流した後、ミニバスに乗りチュラロンコン大学に向けて出発、９時頃に到着後すぐに学部長とお会いすることができ、記念の写真撮影などを行いました。

記念写真の撮影

その後は大学内で午前と午後に分けて講義を受講し、タイの農業やフードシステムなどについて学びました。タイ国内のそれぞれの地域の気候と栽培される作物の関係性や、農業従事者の減少や少子高齢化など、この国が抱える問題などのことについてお話を聞き、改めて農業という産業の複雑さを感じました。

お昼は大学から車で 10 分程離れた場所にある大型ショッピングモール内にあるレストランでタイ料理を頂きました。トムヤムクンやグリーンカレーなどの日本でも有名なものから初めて見るものまで様々な料理を楽しむことができ、よりタイの料理に対する興味が深まりました。またショッピングモール内を散策するなかでレストランや販売されている商品に日本発、日本産のものが多いことに気づきました。日本とタイの文化的・経済的な繋がりを感じ、タイの人々が具体的に日本にどのような印象を持っているのかさらに考えるきっかけになりました。

チュラロンコン大学で最も古い講堂

午後の講義では、チェンマイ北部の環境保全の話がありました。森林を伐採し、山の斜面一面にトウモロコシが栽培されており、このことが表土の流出等の環境問題につながっていることを学びました。講義が終わった後は大学構内の建築物や資料館など見学し、チュラロンコン大学の歴史について学びました。国や街の人々と大学との間にある関係や、そのルーツについて知り、それが今もなお大学の教育方針の大きな柱として残っているのだということに気づきました。

明日はバンコクから北東方向に離れた場所に位置するカオヤイ地域に移動し、マンゴーハウスファームとグランモンテワイナリーを訪問する予定です。マンゴーやブドウといった果樹作物の栽培方法やそれらの付加価値を高めるための事業、こうした取り組みによる地域振興の方法や課題などについて学びます。特に、マンゴーハウスの社長は、チュラロンコン大学を卒業し、私たちと年齢があまり変わらない若い女性だと聞きました。直接お話を聞くことができるのが、今から楽しみです。

海外実習報告第３日目　９月２日(土)　　佐藤天音

３日目はちょっとしたトラブルによる遅延からスタートしました。どうやら男子の宿泊所の方で宿代を支払うのに困っていたようです。30 分ほど遅れて無事バンコクを出発することが出来て、ドライバーさんが頑張ってくれたので、お昼はレストランで食べることが出来ました。タイ料理はメニューの大半がデフォルトで辛いので、あまり得意でなければ「A little spicy!!」と大きな声で伝えることをおススメします。今日の食事で特に美味しかったのは「タマリンドとチキンのスープ」です。酸味と辛味と甘味のバランスが良く、とても美味しい料理でした。タマリンドは東南アジアでメジャーなフルーツで、ドライフルーツやペーストにして調味料、ジュースやお菓子など様々な加工品が市場に出回っています。このスープと出会ってからタマリンドの味に魅せられ、ドライフルーツを購入して食べてみました。味は梅と干し柿を足して割ったような味で、初めて食べたのに甘酸っぱい懐かしい味がしました。すっかり虜になってしまったので、お土産にいくつか持って帰ろうと思います。

タイ料理を堪能した後は今日のメインである「Khao Yai The Mango House Farm」にお邪魔しました。ここはマンゴー畑と直売所兼カフェが人気の観光農園です。到着するとすぐにマンゴースイーツが続々と登場し、先生方や他の学生からも歓声が上がっていました。タイのマンゴーは日本と比べてとても安価で、現在は１キロ 160 バーツ（日本円で約 640 円）で購入することが出来ます。マンゴーの価格は不安定でその都度変わるそうです。オーナーの Nan 氏（女性）は、チュラロンコン大学を卒業し、我々と年齢もそれほどかわらない若い経営者です。マンゴーの選別には力を入れており、全て手もぎで収穫した後にサイズや色味、表面の傷など細かくチェックしているので、店頭に陳列しているものはどれも外れがない美味しいマンゴーだと言っていました。タイの人々はフルーツの見た目よりも、味の方が重要だそうです。しかし傷物などは全て加工品用に回し、店頭ではきれいなマンゴーのみの販売だったので、「訳アリ商品」のような形で通常より安く購入できるコーナーを作っても需要がありそうでした。

ごちそうになったマンゴースイーツ

そして最後に訪れたのは「Gran Monte Winery」です。ここではブラジルやフランスその他様々な国のブドウを広大な土地で育て、独自に交配させてワイン造りを行っていました。ワイン造りは寒冷な地域で盛んなイメージでしたが、こんな高温多湿なタイでも作られていることに驚きました（ちなみにワイナリーのあるカオヤイ地方には他にも３つのワイナリーがあります)。特に印象に残っているのはブドウの交配の仕方です。異なる品種を上と下に分けて育てているので、近くで観察すると葉の種類が全く違っていました。果実がなったときにどちらの実ができるのかと疑問に思って観察していると、木によって背丈に差があったのでブドウの品質に偏りが出るのではないかと感じました。

ブドウ畑の見学

ワイナリーの見学が終わるとショップに案内してもらい、4種類のワインのテイスティングが始まりました。私は普段あまりワインを飲まないので詳しくないのですが、同じような色味のものでも香りや後味が違ったり、それぞれに合うおつまみを紹介してもらえ、様々な方面から楽しむことが出来ました。ここのワインはタイ料理に合うように作っているそうで、国内の消費者を主なターゲットにしているようです。

お酒が飲めない人にはグレープジュースを用意してくれるのですが、それがとても良い香りがして美味しそうでした。ショップには他にもマンゴスチンジュースやスターフルーツのジャムなど、日本ではなかなか見かけない加工品がたくさん陳列されており、興味深かったです。ただワインを製造しているだけではなく、オーナー家族の歴史や生産工程、そして販売までの全ての過程を追って訪問者が回れるので、観光スポットとしても需要がありそうです。ツアーガイドの方が国内だけではなく、もっと国内外の人にワインの味、そしてカオヤイの魅力を伝えていきたいと言っていたので、私もワイン好きな友人や家族にタイのワイナリーの話をしたいと思います。

海外研修中の服装について紹介します。タイはとにかく蒸し暑いのでなるべく涼しい服を選んで持ってきました。何か現地ならではの服を調達したいなと思っていたところ、女子３人はタイワンピースの可愛さに惹かれて買ってしまいました。値段は 490 バーツ（400 に負けてくれた、約 1600 円）で、値段も手ごろなうえに、とても種類が豊富でかわいいのでおススメです。タイに行く機会があればぜひ買って着てみてください。涼しくて軽いので旅行中は重宝すると思います。

タイのワンピース

またタイパンツもおススメです。涼しくて南国風のスタイルに早変わりするので、1 枚持っておいて損はないと思います。ちなみに私はルームウェア用にも何枚か購入したいので、追加で２～3 枚ほど買って帰る予定です。みなさんもぜひタイの服で南国気分を存分に楽しんで下さい！！

今日訪れたマンゴーハウス、ワイナリーでは家族経営を主なスタイルとしていました。それぞれのオーナーは元々家族が農場を持っていて、大学を卒業後に家業をついでいるため、新規就農に比べるととても恵まれた環境だったと言えます。タイでは新規就農者に向けての支援システムなどはどのように行われているのか気になりました。私は現在大学では農業経済学を学んでいるので、帰国後は途上国の就農支援システムなどについても調べてみたいと思います。

海外実習報告第４日目　　９月３日(日)　　井上　結夢

４日目が始まりました。昨夜は雨が強く降っていて心配していましたが、今朝は晴れていました。今日はカオヤイ国立公園に訪問します。昨日から、「Puntara-Khaoyai Resort」というホテルに宿泊していて、朝はホテルで洋風な朝食を頂き、出発です。

ホテルから30分ほど車で移動したらカオヤイ国立公園に着きました。本日の移動車は、トラックの荷台に乗せてもらう、サファリカーでした。自然の風や臭いなどを直接感じることができました。カオヤイ国立公園は、タイで初めて認定された国立公園で、2005年 7 月に世界自然遺産にも登録されました。国立公園の総面積は、2168 平方㎞で、4 つの県にまたがっていて、これは東京都の面積とほぼ同じくらいの広さがあります。

カオヤイ国立公園入口

カオヤイ国立公園の観光は一日ではとうてい回りきれるような規模ではありませんが、メインのスポットをサファリカーで案内して頂きました。ここは、東南アジア最大級の熱帯モンスーン林地帯で、その85%が森林に覆われ、希少生物や希少動物の数少ない生息地でもあります。この広大な敷地内には、約300 種の鳥類、約 70 種の哺乳類、約 24 種の両生類、約 2000 種の植物が生息しており、トラ、アジアゾウ、ワニ、白テナガザル、などの野生動物など、絶滅の恐れがある動物が住むことでも知られています。とはいえ、猿や鹿などは頻繁に見かけることができますが、散策中に野生のトラ、ゾウ、ワニなどに遭遇することは滅多にないそうです。

双眼鏡から見た野生のゾウ

私たちが見ることができたのは、毒ヘビ、ミズオオトカゲ、シロテテナガザル、クロテテナガザル、サソリ、マムシ、鹿などです。そしてなんと、野生のゾウを見ることができました。やはり野生のゾウを見た時は興奮しました。国立公園は、野生動物の保護を目的としています。私は、野生の猿に、観光客が勝手にフルーツを与えている姿を目撃しました。また、野生のゾウを見た観光客がだんだん近づいている姿も印象的でした。このように、人間が野生動物に関わるということは、野生動物の保護にとって良い行動であるとは思えませんでした。この先、持続可能な保護活動を行うためには、このよ

うな行動を規制する仕組みがもっと必要だと感じました。また、本日ツアーガイドをして頂いたガンさんは「写真を撮ることにとらわれるな。自分の目で見ておきなさい。」という言葉を熱心に私たちにかけてくださいました。近年注目されている、サソリの乱獲による食物連鎖の崩壊の例にもあるように、生き物を、私たち人間にとっての観光材料や娯楽として捉えるのではなく、地球を守っている生態系の一部だということを忘れはならないと学びました。

カオヤイ国立公園を出て、再び Puntara-Khaoyai Resort に戻ってきました。このホテルでは、カヤック体験を無料で体験することができます。17 時までと受付の際に教えてもらいましたが、私たちがホテルに着いたのは、16 時 55 分。走れば間に合うだろうと学生全員で走り、受付の方にまだ間に合いますか？と聞いたところ、快く「OK！」と言っていただきました。嬉しさ半分、ギリギリになってしまい申し訳ないという気持ちが半分でした。カヤックは 2 人一組で行いました。私と私と一緒に乗った学生は船を漕ぐのに慣れていなくて、最初は苦戦しました。しかし、時間が経つにつれてコツを掴み、息も合ってきて、行きたい方へ進めるようになりました。ホテルの方も優しく教えていただき、タイ人の優しさに触れることができました。

本日の夕食は、ホテルの近くにある「六興」という中華の看板を掲げたお店に行きました。4 日目にしてタイ料理に飽きを感じてしまった私たちは、少しタイ料理から離れたものを食べようとなり、そこへ行ってみました。お店の外観は、確かに中華料理らしかったのですが、実際のメニューはほとんどタイ料理でした。しかし、本格的なタイ料理よりもスパイスが少なくて食べやすかったです。

夕食を終えて、ロータスという小規模スーパーのような場所へ行き、食後の甘味としてタイティーを買いました。ロータスで、生肉がパック詰めされていない状態で売られていたことに深く衝撃を受けました。日本は、衛生管理がとてもしっかりされていることを改めて感じました。

明日は、カオヤイ地方を離れてバンコクの方へ戻りつつ、有機酪農家と乳製品加工工場を訪問する予定です。今日は、暑い中、長い距離を歩いて、大変疲れがたまったと思うので、しっかり休んで明日の実習に備えます。また、最終日のチュラロンコン大学で行われる最終発表に向けて、各自どのようなテーマで発表をするか、先生やＴＡの方と相談して、スライドの作成に取りかかり始めました。明日から、この海外実習も折り返しになります。大学の実習として学びに来ているということを忘れず、明日からも積極的に学びたいと思います。

ガイドのガンさんとヘーウスワット滝にて

ホテルでのカヤックの様子